

今回の講師：堀内 祐子 先生



1956年生まれ。発達障害のある4人の子どもたちを育てる。

子育てをする中、通信制の大学で発達障害や心理学について学び、自閉症スペクトラム支援士、傾聴心理士、特別支援士（スクールファシリテーター、ペアレントサポーター）の資格を取得し、自身の経験を基に2006年より全国で講演活動を行う。

特に長男（自閉スペクトラム症、ADHD、LD）のパニックやこだわり、感覚過敏によるトラブル、不登校で途方に暮れる毎日を送っていた。自分の力ではどうにもならないため、本や講演、大学（星槎大学）などで学ぶ中、長男の脳の特性として捉えられるようになって行く。学んだことや、気付いたことを実験のつもりで試して行くうちに少しずつ長男が落ち着いてくるのを実感するようになる。

そんな中、長男への対応について書いた大学のレポートが教授の目にとまり、それがきっかけで講演をするようになる。講演では、日々起こるさまざまなエピソードを通しての気づきやその対応について具体的に語る。そのため、聞いた方が家に帰って直ぐに試せることが多く、実際に試してみて子どもが驚くほど落ち着いたなどの感想が寄せられる。

また、その経験をまとめた本を4冊（発達障害の子とハッピーに暮らすヒント他）を書いている。4冊目の本「ADHDと自閉症スペクトラムの自分がみつけた未来」（親子で振り返った誕生から就職まで）は、次男との共著で、親の目線と子どもからの視点の両方から書いている。

NHKのハートフォーラム（発達障害の子どもたち）では長男、次男と共に登壇している。

それがきっかけで、現在も、長男や次男と講演することが多く、子どもの気持ちを聞くことができ、子どもを理解する助けになったという感想を頂いている。

また、日本教育心理学会にて、シンポジウムのパネリストとして「特別支援教育における学校と家庭の連携」を発表。「婦人公論」（2011年8月号）で、映画「海洋天堂」のシュエ・シャオルー監督と「障害を持つ子どもを残して逝けない親の現実」をテーマに対談。小学館では阿部利彦氏との対談をはじめ、特に思春期のことについて何度か寄稿している。

子育てについて（向き合い方、接し方、子育て中の悩み）
キャリアについて（働いたきっかけ、家庭との両立の工夫）

HP : <https://k-gifted.net/>
note : <https://note.com/yukoyuru>